

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 私の住む町での災害 」

岐阜県 下呂市立萩原小学校 5年 ^{いまい}今井 ^{いろは}彩葉

2020年7月7日、私の住む下呂市で大雨がふり、とっても大きな災害になりました。夕方6時ごろから強い雨がふりはじめ、いつもなら少し時間がたてば落ち着いてくるのに、その日はどんどん強くなるばかり。私のお父さんは、地域の消防団でカップを着て、何があってもすぐ出動できるように準備をしていました。

不安の中、布団に入った私は、外の雨音でねむれませんでした。すると夜中の2時ごろ大きなサイレンが鳴り、近くの川はもうすぐ氾らん水位に達する所でした。私は、お姉ちゃんと、妹とがまんしてたこわさがMAXになり、泣いてしまいました。お母さんは、

「大丈夫、大丈夫。」

と言ったけどお母さんの顔もとっても不安そうでした。そして、家の前の水路があふれ出し夜中なのに消防団の人たちが玄関に入ってこない様に土のうを積んでくれました。少しほっとしました。そこにお父さんの姿はなかったけど、他の場所で同じ様な事をしているお父さんに「がんばってね。」という思いと、「元気で帰ってきます様に。」と願ったのを思い出します。その日は、ずっとテレビのニュースをつけて下の部屋でみんなとねました。お母さんは、お父さんが心配でずっと起きてみたいのです。夜中、ひなんも考えましたが、家には目の悪いおじいちゃんがいること、犬がいる事、お父さんがいないから、この大雨に荷物を持ってひなん所まで、お母さんとおばあちゃんまで運転して行くのは、大変だと思ったので家にいる事にしました。

その後、朝の4時ごろ、お父さんは、一睡もせずベタベタで帰ってきました。私の住んでいる地区でもひなんした人はたくさんいるし、家に土砂が入って、もうお家の中がぐちゃぐちゃになってしまった家もある事を教えてもらいました。いつもニュースなどで見ていた光景がすぐそこで起きていたことにビックリしました。家から北へ20km行った所では、道がえぐり取られていました。下呂市の人が、高山方面へ行く大事な道です。私は、こわさで言葉も出ませんでした。

次の日から道を直す工事が急ピッチで進みました。私の家は、砕石業をやっているためダンプのおじさん達が、朝早くから夜の9時すぎまで土砂を運ぶために、働いていたのを毎日見ていました。現場でも24時間体制で働いている人がいる事もお父さんから聞きました。私は、胸がギュッととなり、今まで味わったことのない気持ちになりました。近所の土砂でうもれてしまった家にも、毎日ボランティアで多くの方が、お手伝いをしていました。

1カ月経ったころ、片側通行で高山まで道が通れるようになりました。近所のお家も片付けが終わりしました。たくさんの方が力を合わせて災害を乗り越えていく感じがしました。

こんなニュースもありました。復きゅう工事が急ピッチで進む中、対岸に住むお家の方が連日連夜作業を続ける作業員の方々をはげましたいと、「24時間ありがとう。」と書いた大きな紙を家のまどにかかげたのです。すると国道片側通行で開通した8月17日。今度は、対岸の作業員の方々が「ありがとうをありがとう」と書かれた横だんまくをかかげて思いを返したのです。とてもすてきなお話だと思いました。

今回の大雨で自然災害のおそろしさを知ると同時に、人と人が支え合うあたたかさがある事を知りました。

私は、昨年のようなこわい経験はもうしたくありません。しかし今年もまた各地で大雨がふり土砂くずれが発生し、何人もの方が亡くなりました。いつどこで何が起こるか分からないのが自然災害です。そのために、今何をしておくべきか考え準備をしておくことが大切だと思いました。